

開講日程

2019年10月26日(土)
 2019年11月30日(土)
 2019年12月21日(土)
 2020年1月18日(土)
 2020年2月15日(土)

時間 15:00～17:00(開場14:30)

会場 京都大学稲盛財団記念館3階
 大会議室

受講料:1講座1,000円
 (5講座4,000円)

定員:80名(先着順)

この公開講座は、京都大学アジア・アフリカ地域研究資料科の「令和元年度アジア・アフリカ地域研究履修証明プログラム」の一部として提供しています。

*お申し込み方法

「お名前、ふりがな、ご住所、Eメールアドレスなどの連絡先、受講希望講座」を記して、下記のいずれかへお送り下さい。

1) E-mail: manabi@frica@gmail.com

2) 郵便: 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46

京都大学アフリカ地域研究資料センター 公開講座係

3) FAX: 075-753-7831

お申し込み頂きました5日以内に受講受付と受講料振込のご案内を返信いたします。

*お問い合わせ

京都大学アフリカ地域研究資料センター

E-mail) manabi@frica@gmail.com

電話) 075-753-7803

京都大学アフリカ地域研究資料センター公開講座

アフリカから学ぶこと

2019-2020



photo by Hana Shimoyama



photo by Yushi Yanahara

会場への行き方

- 京阪「神宮丸太町駅」5番出口(出町筋方面)から北へ徒歩5分。
- JR/近鉄「京都市」から市バス(205/171/4系統)で「荒神口」下車、東(荒神橋方向)へ徒歩4分。
または京都市バス(17系統)で「荒神橋」下車すぐ。
- 阪急「河原町駅」から市バス(205/59/37/17/4/3系統)で「荒神口」下車、東(荒神橋方向)へ徒歩4分。
または京都市バス(17系統)で「荒神橋」下車すぐ。
- 地下鉄丸太線「丸太町駅」から市バス(204/202/93/65系統)で「丸太町京阪前」下車、北へ徒歩5分。

いま私たちにできること

京都大学アフリカ地域研究資料センター
公開講座「アフリカから学ぶこと」

シリーズ
いま私たちにできること

京都大学では2017年にアフリカ学際研究拠点推進ユニット(アフリカユニット)を立ち上げ、分野を超えてアフリカに関わる研究をつなぐ取り組みをおこなっています。今回のシリーズでは、アフリカユニットから、さまざまな分野でアフリカ研究を展開している5人の専門家に最新の話題を提供してもらいます。アフリカを学ぶ私たちにとって、いま何ができるのか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

photo by Hana Shimoyama

第1回 2019年10月26日(土)

1 アフリカをつくる:ものづくりの営み
高橋 基樹

TICAD7などをめぐるアフリカの協力をめぐる議論がさかかくなってきました。そこでは、日本からの援助や投資に集中していますが、より重要なことは、アフリカの人びと自身が、どのようにアフリカの現在と未来を創ろうとしているか、ということでしょう。この講義では、「ものづくり」に注目し、アフリカの人びとの営みの特徴を紹介します。そして、アフリカのものづくりをめぐる人びとどうしの関わりやそこに現れる創意工夫を軸として、アフリカと日本の人びとが、自らと世界の未来をどのように創っていくべきなのかを、みなさんとともに考えたいと思います。



高橋 基樹(たかはし もと) 京都大学アフリカ地域研究資料センター・教授、同センター・東京原籍生まれ。主な研究対象は、ケニア、タンザニアなど東部アフリカの諸国の経済及びその政治との相関関係、日本及び他の国・機関による対アフリカ開発協力。主な著書『開発と国家:アフリカ政治経済論序論』、『現代アフリカ経済論』(共編著)。

第2回 2019年11月30日(土)

2 アフリカを繋ぐ:住民との道直しから
木村 亮

多くのアフリカの国々が農業国でありながら、農村インフラ(農道、ため池など)の整備が進んでいないという問題のために、貧困に苦しんでいます。道が直れば、たとえ雨季であっても市場や学校や病院に行けます。自分達で自分達の問題を解決できる、やる気と自信を引出すことで貧困から脱するきっかけになります。アフリカ各地で「住民へのチャリティーから住民のビジネスへ」という思いを込めて、農民や若者が技術を身にに着き、最終的には小さな建設会社を自ら設立する動きを、認定NPO法人「道貫頭人」の活動を通して仕掛けています。



第3回 2019年12月21日(土)

3 アフリカを癒す:健康とは何か
新福 洋子

アフリカで生まれる一つの命。どこで生まれても命の重さは変わらないはずなのに、アフリカは世界で最も高い妊産婦死亡率、新生児死亡率の苦しみを背負い続けています。これまでに多くの国際機関や援助団体が様々な取り組みを行ってきました。しかしそれらの多くは、アフリカ以外で行われた研究に基づく施策であったり、西洋医学の考え方をいかに近づけるかという考えに基づくものでした。アフリカの人々にとって、健康であるということはどういうことなのでしょうか?人類学の研究者としての連携を通じた胎産学研究者としての学びを紹介します。



新福 洋子(しんぷく ようこ) 京都大学大学院医学研究科・准教授

京都大学大学院医学研究科准教授のために海外の胎産学や産後、妊産婦と家畜の健康研究を行う。論文「Women's perceptions of childbirth experience at a hospital in rural Tanzania」はコクランレビュー、Social Science and Medicineに用いられ、国際的な産後ケア改善の指針作りに取り入れられている。

第4回 2020年1月18日(土)

4 アフリカを食べる:グラスカッターの家畜化
村山 美穂

ガーナは、カカオの主産地としても知られ、多様な食糧食品供給地でもある食文化を誇っています。私たちは毎年7月10日の動物福祉グラスカッターの家畜化を進めることによって、食用とする動物性タンパク質を確保すると同時に野生動物の野良を減らし、環境を保全するプロジェクトを実施してきました。グラスカッターはアフリカ在来的小型動物で、ガーナの気候風土に適しているだけでなく、その肉はアフリカ各地でたいへん好まれています。農家にグラスカッターを配布して飼育や食品加工のトレーニングをおこない、学校では栄養や環境保全の講義を開催するなどして、5年間で約300頭が飼育されるようになりました。ガーナ起点の国際協力の形を紹介します。



村山 美穂(むらやま みほ) 京都大学野生動物研究センター・教授 野生動物の遺伝情報にもとづく食肉で、ガーナのグラスカッターから日本のイヌや猫まで、多様な動物種を対象としている。主な著書『野生動物と道いかに、見つめて知りたくなること』(編著)。

2020年2月15日(土)

5 アフリカを歩く:山・砂漠の自然と人と
水野 一晴

温暖化によりケニア山やキリマンジャロから10~20年後には氷河が消滅すると言われています。これら高山の氷河の融水は約50年かけて山麓の淡水として湧出していると推定されるため、氷河の縮小や消滅は、淡水を利用している地域住民にとっても重要な問題です。また、氷河の後退や温暖化とともに生態系も変化しています。ケニア山やナミア砂漠などを中心に、アフリカでは過去から現在までどのような気候変動が生じ、自然が変化し、人々に影響してきたかについて論じます。



水野 一晴(みずの かずはる) 京都大学大学院文学研究科・教授

愛知原籍生まれ。主な研究対象はケニア山やキリマンジャロ、ナミア砂漠での自然環境の変化。主な著書に「世界がわかる地理学入門:気候・地形・動物種と人間生活」、「気候変動で読む地球史-世界地球の自然と暮らしから」。



木村 亮(きむら てる) 京都大学大学院工学研究科・教授
京都大学土木工学(地盤工学)、地盤と構造物の動的・動的相互作用の実験・解析、新しい構造材料・施工法の開発、道高を含む発展途上の簡便インフラ構築手法の開発と実践。

